

打抜工程で大きな威力を発揮する 「シトースパイダープレッサー (CITO SPIDER PRESSER)」 ブランキング上型専用ツールにより 打抜機の高速運転が可能に



マリエン社長



谷口社長

有功社シトー貿易(株) (谷口有三社長、本社=東京・新宿区) は1986年の創立以来、専門商社として、全国1200社以上の印刷・紙器・段ボール箱各社の製造現場と関連産業向けに、専門的な「生産技術」、「製品」、「情報」を届けている。

経営理念として、「美しい箱作りのお手伝い=より高品質な箱を作るための最新技術の提供」と「明日はもっと楽しい=製造現場のみなさんの作業環境がより快適になるための提案」をかけた、“お役立ち精神”にあふれるプロ集団を標榜している。

とくに各種打抜用資材メーカーのシトー・システム社 (ユルゲン・マリエン社長、本社=ドイツ・シュヴアイク市) との関係は深く、同社の前身の時代から販売代理業務を続けている。そのシトー・システム社は、3年前にボブスト社のグループ企業となったが、このほどブランキング上型専用の「シトースパイダープレッサー (CITO SPIDER PRESSER)」を開発、シトー社の製品ラインナップに加えた。「日本の打抜市場においても“生産性向上”は、適正利益を確保するためにも不可欠の課題。このツールにより、平盤打抜機の高速運転を可能にする」と日本をはじめ世界中の紙器パッケージ企業から、大きな期待が寄せられている。

谷口社長に、開発経緯と特長を聞いた。

シトー・システム社はイギリス・イタリヤ・チェコに支店を持ち、オーストリアにはシトー・フォルムライン社 (CITO Formline)、オランダには抜型用のゴム・スポンジを製造するポリーMX社を保有している。

さらにウィーンとザルツブルクには、抜型会社のビーリング&ペツェ抜型製造社 (Bieling & Petsche Stanzformen GmbH) を保有、グループ全体としての従業員数は約250人規模となる。研究開発にはとくに力を入れており、R&D部門にはダイカッティング・シミュレータも完備、紙・板紙の打抜き、切れ刃・罫線・抜型ゴムの微細な動きなどもシミュレーションできる。

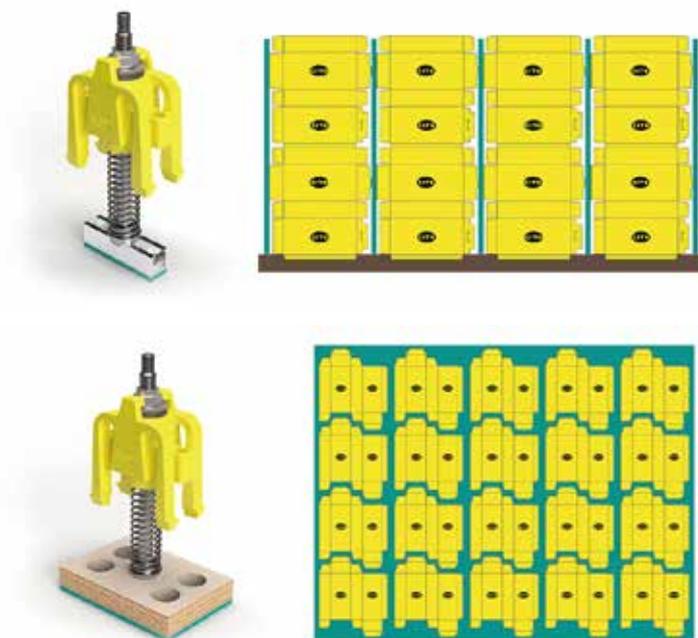
打抜きについての加工技術・素材の研究など、研究・開発には、売上高比で常に10%を投入している。世界の紙器パッケージ会社がさらに生産性をアップさせ、十分な利益が確保できるようサポートしている。

同社のR&D部門には、機械エンジニア・材料学者・包装エンジニア・印刷と包装技術のスペシャリストなど知識と経験豊富なスタッフで、チーム編成されている。

3年前に、ボブスト社のグループ企業になったことで、谷口社長は「これまでボブス



ボックスに納められたシトースパイダープレッサーのレール用ツール



レール用（黄色）ツールと面付の画像

ト社が開発し、世界のパッケージ工場の打抜工程で、生産性向上のための最適ツールとして使われてきた「スパイダープレッサー」を、シトール・システム社が新しいデザインを採り入れてバージョンアップさせ、「シトールスパ

イダープレッサー」として、シトール社の製品ラインナップに加えたものです。このツールは、打抜機のブランキングステーションで、製品の両サイドにある外周カスやドブを押さえることで、シート送りがよりスムーズとなり、打抜

機の高速運転が可能となります。生産性アップを数字として実感できるといふ業界待望のツールといえます」と語る。今回実際に、シトールスパイダープレッサーのバージョンアップを手がけたのはシトール・フォルムライン社で、

特許は、ポブスト社が取得している。

レール用とスポット用の2種類を用意

シトールスパイダープレッサーは、用途によって色がわかれている。

レール用 (CITO SPIDER PRESSER RAIL) が黄色、スポット用 (CITO SPIDER PRESSER SPOT) が黒色の2種類がある。

レール用は、専用レールと、レールに貼るゴム製固定用シール材もあわせて提供する。ゴム製固定用シール材は、大ロットでも貼り替えが不要なほど、高い耐久性を保持している。

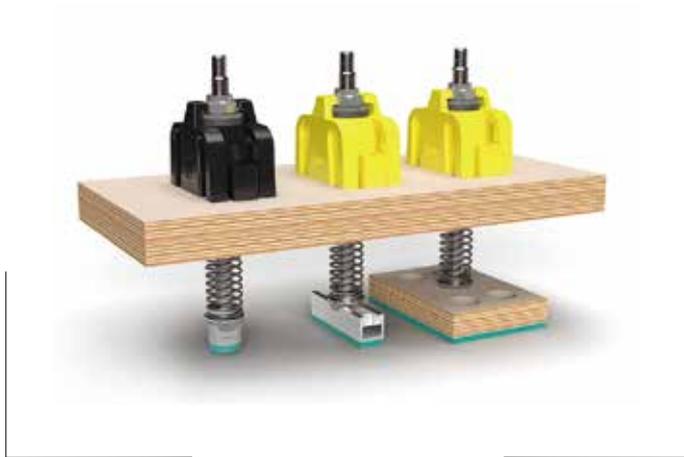
レール用は、製品両側の外周カスやブランクス間を直進するドブの押さえに使用する。スポット用は、カスを点で押さえるときに使用する。

新製品の特長は、

①信頼性の高いブランキン



スポット用（黒色）ツールと面付の画像



- ② 特殊ゴムの使用により従来の問題点をほぼ完璧に解決できる。
- ③ 高さ調整ができる。
- ④ 色わけすることで、装着が容易に安全におこなえる。

- ⑤ 長期間の使用を考慮して堅牢な材質を使用している。
- ⑥ 1時間あたり最大1万2000枚通しができる。

谷口社長は「これまでのスパイダープレッサーでは、用途の異なるレール用とスポット用を取り違えることがあったが、新ツールは色区分があるので、時間のロスが解消されたという声を聞いています。またゴム製シール材も一緒に購入できるようになり、耐久性も非常に高いので、作業時間が短縮された、という声もあります」と語る。

**ダイフューチャーグループ
では新時代に対応した
資材開発・抜型の開発を**

「ダイフューチャーグループ（The Die Future Group）」は2012年、抜加工技術

を強化・向上させることを目的に、シトリー・システム社が推進母体となり設立された。シトリー・システム社、ビーリング&ペッチェ抜型製造社、それに欧州の抜型企業、資材関係企業が集まって、新時代に対応した資材開発・抜型開発をおこなっている。抜型会社向け、紙器パッケージ会社向けのトレーニングもおこなわれている。世界の抜型企業や紙器パッケージ会社からの声を集め、問題点を分析して打抜加工技術上の問題解決にあたっている。

またヨーロッパ抜型工業連盟（略称：ESU = Europäische Stanzform Union e.V.）に、同社もボブスト社も加盟しており、今年6月初旬にルクセンブルグで開催の「ESU TECHNOLOGY FORUM 2022」にも参加を予定している。